



育苗の良否が生育や収量、品質を左右します。適正な管理で健苗育成に努めましょう！

秋田地区営農センター 主任 関口 直樹

● 温度管理

好天時には、ハウス内の温度はすぐに高温になってしまいます。**出芽期の適温である30～32℃**を超えないよう、温度の上がりすぎや急激な温度変化に注意しましょう。

ビニールが新しいハウスは温度が上がりやすいので、特に注意が必要です！

2.5葉期以降は夜間もハウスの側窓を開放するなど、徐々に外気温に慣らしていきましょう。



● 水管理

かん水は、床土が白く乾いている、葉が巻き始めているといった床土の水分状態を確認し、**朝に1回たっぷり**と行うことが基本です。夕方から夜間に過湿状態にならないように、午後からのかん水は控えましょう。曇天日、低温時も避けてください。また、地温の上昇を妨げて根張り不良や軟弱徒長を招くので、必要以上にかん水を行わないようにしましょう。



● 育苗期の防除

本田におけるいもち病の発生は、育苗期間中に発病した苗を持ち込んでしまうことが主な要因となっています。**必ず育苗期の防除を行って発病苗の持ち込みを防ぎ、いもち病被害を未然に防ぐことが重要です。**

農薬名	希釈倍数	散布量	散布時期
ベンレート水和剤	500倍	500ml/箱	播種時～播種7日後頃

● 床土混和のできる葉いもち・初期害虫用薬剤

薬剤によって使用する時期が異なりますので、必ず確認のうえ使用してください。

薬剤名	使用量	使用時期
ツインターボ箱粒剤08 	50g/箱	播種前～移植当日
ファーストオリゼプリンス粒剤6 		播種前～播種時覆土前
ルーチンアドスピノ箱粒剤 ※イネヒメハモグリバエ対策 		播種時～移植当日